

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3270600269		
法人名	社会福祉法人 花の村		
事業所名	グループホーム 合歓の郷 さと		
所在地	島根県江津市後地町834-1		
自己評価作成日	平成28年9月28日	評価結果市町村受理日	平成28年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327">x.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=327</a>
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	NPOLまね介護ネット		
所在地	島根県松江市白濁本町43番地		
訪問調査日	平成28年10月14日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の希望に応じた外出支援。(帰宅支援)</li> <li>・昔、取った杵柄を生かした作業</li> <li>・温泉入浴</li> <li>・隣にある同法人の保育園児との交流(行事の参加や見学、昼食を一緒に食べる。等)</li> </ul>
--

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

<p>法人としてプロジェクトチームを作り全職員がそれぞれのチームの一員として研鑽に努めている。「保育園児との交流」や「地域行事への参加」はこれまでも継続して行ってきたが、今年度はさらに事業所で園児と一緒に昼食を食べたり芋掘りをするなど積極的にやっている。利用者が事業所の中だけで生活しないようにできるだけ戸外に出かける機会を作り、帰宅願望のある人には一緒に歩いたり自宅に行くなど思いに沿った支援に努めている。モップ掛けを習慣とする人や、洗濯物たたみや食事の準備、コースターや巾着袋を作る人など、利用者はできることを行い生活している。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を唱和しており、理念の共有と実践につなげるようにしている。	ミーティングで唱和したり、講習会で理念に立ち返ることの大切さを学び、日々意識して実践することに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には、参加しており、散歩や病院受診、買い物等利用者と一緒に地域に出かけている。	散歩や買い物に出かけたり、地域行事への参加や仏教婦人会のボランティアなどを通して交流を図っている。法人としてプロジェクトチームを作り地域や保育園児との交流に意欲的に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人の「花の村新聞」を地域の方に回覧しており、認知症への理解や支援方法を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で、利用者やサービスの実際の取り組み等の状況について報告をし、参加されている方の声をお聞きし、サービス向上のために活かしたいと努めている。	利用者の様子や活動を報告し、地域の情報を得たり助言を受けている。駐在所からも参加してもらい利用者が安全に暮らせるよう協力を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、情報交換をさせられたり、必要な時に連絡をとらせてもらっている。	運営推進会議や、必要時には連絡を取り協力関係を築いて取り組んでいる。入居に際しても利用者本位に利用者が安心して暮らせるように理解と協力を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	スピーチロックやセンサーマット、行動制限をしない支援など、ミーティングで話し合い身体拘束の内容を理解してケアに取り組んでいる。帰宅願望のある人にも自宅に行くなど行動を共にしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	事業所内での虐待が見過ごされないよう、お互いが注意を払い、虐待についての研修を年に1回行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持つようになっているが、職員すべてが周知しているかは不明。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約や改訂等の時は、十分な説明を行い、利用者や家族等の不安や疑問点を確認し、納得、理解していただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会や家族会等で意見・要望を聞くようにしたり、アンケートで要望を把握している。運営推進会議等で外部の方にも出た意見を伝えるようにしている。	家族の訪問があった時や家族会、運営推進会議などで意見を聞くことに努めている。家族会は年2回ユニット毎に開催し、昼食や花壇の手入れを一緒にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々のミーティングで、提案を聞く機会を設け、反映できるようにしている。	会議やミーティング、日々の業務の中で意見を聞いたり相談を受けている。職員全員がプロジェクトチームで活躍する場を作り意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各自の実績や勤務状況を把握し、勤務希望や研修など向上心を持って働けるよう職場環境、条件の整備に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や施設内のプロジェクトに参加して質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個々に本人の抱えている課題や要望の把握に努め、関係づくりを進めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の意向をお聞きして関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	進行や変化している状態を予測しながらサービス導入の努力をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方と一緒に家事や畑等を行ったり、趣味活動に取り組むなど関係を築く努力をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子をご家族に細目に連絡するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方との面会や本人が今まで行っていたお店や近所の方との交流が途切れないように努めている。	行きつけの美容院や店、出身地区の行事などに出かけ馴染みの人との関係が途切れないように支援している。墓参りをしたり自宅に帰り近所の人と話すこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流でもめ事が起きた時は見守ったり、必要時には止めに入っている。集団にうまく入れない方は職員が間に入り仲を取り持つ等の努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後は、その後の経過のフォローが難しいが、家族からの連絡や相談があれば受けている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自分の思いを表出できない方もおられるが、本人本位で検討するようにしている。	会話や家族の情報、「聴く」姿勢で接し思いの把握に努めている。外出時の目の輝き、畑仕事や花や生き物など自然との触れ合いの中での表情を見逃さず利用者本位の支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等から生活歴や生活環境、これまでのサービス利用等の経過を聞き、これまでの暮らしの把握に努めるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	現状把握に努め、日々変化していく状態に対応する努力をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	話し合いを重ね、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	介護計画作成担当者を中心に利用者の現状に即した介護計画を作成している。記録用紙の改良を行った。	記録用紙の改良をされているので、再度全職員で記録の仕方を検討されることと、利用者、家族も一緒に話し合いプランを作成されることを望みたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録は、不十分な部分があり用紙の改良を行った。サービス実践や計画見直しにはまだ、活かさきれていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じたニーズに対応するようにしているが、サービスの多機能化には取り組めていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物外出や保育園交流、地域行事の参加等を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は本人・家族と相談をさせて頂いている。主治医の指示に従い、受診や往診を受け、適切な医療が受けられるようにしている。	入居時に希望のかかりつけ医を聞き納得した医師の受診を支援している。医師と協力関係を築いて支援し、夜間対応の体制もとっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に情報や気づきを伝えて相談し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際は、病院の医療相談員と連絡を取り、入院中の状態や様子を聞き、相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の在り方について入所時点では聞いている。事業所で、出来る事出来ない事等の説明し、本人・家族の意向をお聞きして支援するようにしている。	入居時に意向を聞いている。利用者、家族や医師、職員が話し合い、希望や状態を把握して支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の研修は、年1回実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間、夜間をそれぞれに想定し、災害内容も色々想定した訓練の実施に努めている。地域の方への訓練参加は不十分。	火災や土砂災害、台風を想定しユニット毎に訓練を実施している。11月には夜間想定訓練を予定している。地域の人に声をかけているが合同での訓練には至っていない。事業所は地域の避難場所になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	なれ合いの言葉かけにならないように努めているが、出来ていない事もある。適切な声かけや対応に努めている。	排泄時や入浴時には羞恥心やプライバシーに配慮した対応をしている。一箇所のトイレは男女別に使えるようにしている。職員の理解を深めるために「人権」や「接遇」について研修を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望をお聞きするようし、自己決定出来る働きかけをするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自分のペースで行動されるのを出来るだけ尊重し、希望に添うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御自分で出来る方には、任せており、難しい方は、職員がその方らしい身だしなみが出来るように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューやその日の状況により、調理の下ごしらえや準備、片付けをして頂くようにしている。	両ユニット共に下ごしらえや洗い物、片付けなど、利用者の意欲や力を活かせる場面を作っている。できる人は自分の食器と一緒に他の利用者の食器も片付けていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の形態や飲水しやすい状態や物を考慮し、栄養や水分補給に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で出来る方は、声かけでしており、不十分な所もあるが様子を見ている。出来ない方は、職員が歯ブラシやスポンジで対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的なトイレ誘導や本人の排泄パターンを確認してトイレ誘導を行い、トイレ内での排泄を促している。	利用者の状況に合わせ声かけや見守り、一緒に行くなどしてトイレで排泄できるように支援している。タイミングを押し量り尊厳を傷つけない支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々に応じた便秘対策をしており、運動の働きかけや水分摂取、飲み物の工夫をしている。出来るだけ自然排便を促しているが必要時は下剤の内服もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	温泉入浴を基本としており時間帯は決まっているがその中で、個浴・大浴、午前・午後、個別や状態に応じて実施している。	温泉入浴と各ユニットでも入浴できるように支援している。声かけをしても気の向かない利用者も多く、同性介助や対応を工夫しただけ回数多く入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の生活習慣やその時の状態に合わせて休んで頂くようにしている。寝具は1週間に1回又は汚染時に適宜交換しており、天気の良い日は布団を干したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容や副作用に気を配り、症状変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	在宅で続けて来られたことが継続できるように支援、努力はしているが、不十分。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に沿って戸外にドライブに出かけたり、遠方への外出を行っている。遠方への外出は、家族へ連絡し協力を得られる時は得るようにしている。	日常的に散歩や保育園に出かけ、さつま芋を作ったり朝顔を育てるなど戸外での活動場面を作っている。食材や衣類の買い物、ドライブなどできるだけ出かけるように支援しているが、職員はもっと機会を作りたいと考えている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望やお金の管理が出来る方には、お金を所持してもらい、使える機会を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの電話や手紙の希望はないので、こちらから電話をかけたり、ご家族からの電話があった時に話をしてもらっているが、手紙のやり取りは出来ていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れて、共有空間が、居心地よく過ごせる空間づくりに努めている。	自宅で飾っていた日本人形、季節の花や利用者の作品などを飾っている。「さと」には仏壇があり、朝、お参りをしている。随所にソファを置き自由に過ごせるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブル等の工夫で、居場所づくり、落ち着く場所づくりに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の居室は、御本人、御家族と相談して使い慣れた物やなじみの物を置いてもらい、居心地良く過ごせるように努めている。	家族には馴染みのものを持参してもらうように頼んでいる。時計や写真、自分でお茶を飲む人はポットを用意し、家族が壁に飾り付けをしている居室もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立した生活が送れるように努めている。		